

韓国濟州島の海女文化

20120528三重大学共通教育
「志摩の海女文化」で話したことを中心に

海女研究会
2012.08.27
菅原洋一(三重大学)

学生に話したこと

0. 他地域の文化を見る時の注意
1. 濟州島はどんな所か？
2. 濟州島の海女
3. 濟州島での海女文化を活かす取組

なぜ、濟州島が問題になるのか？

海女が存在する

日本以外で女性の素潜り漁が定着している現在唯一？
の地域

名称は「潜女」(チャムス)または「海女」(ヘニョ、日本支配時代を想起させるので用いない場合も)

海女の出稼ぎ(日本から半島へ、濟州から日本へ)

日本の海女とどのような関係があるのか？

日本と同じ課題を抱えている

高齢化と先細り、継承のための取組、観光への活用、
調査研究の取組、無形文化遺産

他地域の文化を見る時の注意

ナショナリズム／お国自慢

自国の文化を優れたものとして見る

自国の価値観で見る

他国の文化を劣ったものとして見る

近い地域であれば、猶更、複雑な歴史的経緯から
くるバイアスが働く～日本の植民地支配～

では、どうする？

客観的に見る(ことは中々できないことを自覚して見る)

さまざまな角度から見る

現地で実際に見る・聞く・話す

地域を越えて共有できる**正確な記述**を心がける

正確な情報の必要性

例:「能登の里山・里海」の世界農業遺産申請書

The largest population of female fisher free divers, referred to as ama or ama-san in **Japan** (ama literal meaning is women of the sea), **reside in Noto peninsula**. Although there was a noticeable decline in the ama-san population from 1998, population leveled off in 2004 and currently totals **179 persons**; ranging in age from the youngest age of 21 years of age to the eldest at 93 years of age.



1930年代の濟州島の農村

泉靖一(1915～1970、文化人類学)『濟州島』

主要作物 粟・麦・稗→主食

大豆・馬鈴薯・サツマイモ・蕎麦

土地は痩せている

土地の疲れを防ぐため輪耕

農村:堆肥(落葉、雑草、豚糞、牛糞)

漁村:堆肥(ホンダワラ)

牧畜 牛・馬の放牧、豚・鶏の各家飼育

1930年代の濟州島の漁村

泉靖一(1915～1970、文化人類学)『濟州島』

暖流と寒流が会合する豊かな海だが～

男の仕事:沿岸での網漁、一本釣漁←←速い海流、強風と

天候の不順、筏舟・漁法・漁具の貧弱さ

* 生計の半数以上を漁業で得る家は少ない

漁業は農業の副業

女の仕事:農業(男はあまりやらない、麦・粟・稗・大豆・馬

鈴薯・サツマイモ・蕎麦)

潜女(潜水漁は女だけ)

* 女の労働が家計の大半を支えている

* 女の漁業従事者数は男の倍以上

1930年代の濟州島の海女漁の実態

泉靖一(1915~1970、文化人類学)『濟州島』

- 濟州島では漁撈については、専用漁業権を認めていない。
- 海女漁のみは専用漁業権があり、沿海は全てこのような漁場である。
- 漁場の主体は自然村、行政区画としての「里」は主体になっていなかった
- 自然村によって、権利を異にし、貝類採集は比較的ルーズだが、海草類、とくに馬尾草(ホンダワラ)採集の慣行は嚴重、馬尾草は肥料にする。
- 農耕社会との文化複合が見られ、農耕生活の一環
- 貝類は島民の貢ぎ物であると共に食料でもあったが、1900年以降最も高価な換金生産物となった。

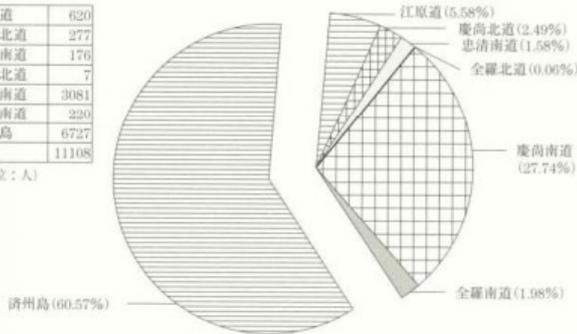




韓国の海女漁の現状

江原道	620
慶尚北道	277
忠清南道	176
全羅北道	7
慶尚南道	3081
全羅南道	320
済州島	6727
合計	11108

(単位：人)



海女は済州島、東・南海岸に分布
 総数約11,000人、うち済州島が61%(1,993年)
 韓国で古くから海女漁が行われていたのは済州島
 東・南海岸には済州海女の進出で海女漁が始まる
 朝鮮戦争後の混乱期に地元女性の海女漁定着
 (李善愛『海を越える済州島の海女』)

済州海女の出稼ぎ状況



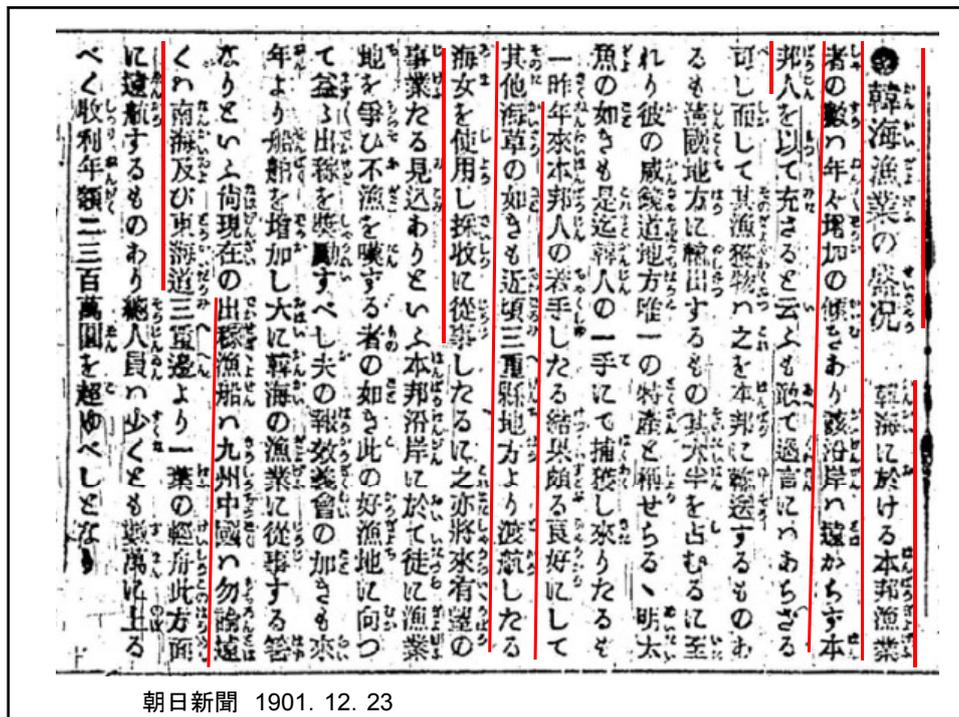
図4 1895年から1945年までの済州島海女の出漁範囲

【朝鮮本土・東アジア】

- 1879 日本海女の朝鮮出漁始まる
(済州以外の地域へ、テングサ、カジメの利用増)
- 1895 済州海女の朝鮮本土への出漁始まる
- 1929 日本海女の朝鮮出漁止まる
(済州海女の低賃金、長時間操業、抗日運動)
済州海女の大連・ウラジオストクなどへの出漁

朝鮮戦争後 朝鮮本土地元の海女漁【日本】

- 1903 日本への出稼ぎ始まる
- 1922 済州大阪の直行便「君が代丸」
- 1930代 日本への出稼ぎ毎年 1,500人程
(李善愛『海を越える済州島の海女』)



出稼ぎの仕方

■ 陸地

- 2月 帆船に20～30人が乗り、全羅南道から東海岸を北上、船中泊、長期なら小屋掛け
- 9月 粟の収穫までに清津から帰島

■ 日本

多くは大阪航路利用、日本の水産業者と雇用契約

* 日本海女より優れた点

- ① 低賃金の割に高能率
- ② 低水温に強い
- ③ 深い海、沖でも器具、船なしで操業

日韓の海女の共通点・相違点

技術はよく似ている

泳ぎ方

潜水の仕方

漁獲物

日本: 食用の貝・海藻類

農業との関係は少ない

済州: 畑の肥料としての海藻

農業との強い関係

日韓海女の成立や伝播、系統については、

慎重な検討が必要

新聞記事に見る済州海女(海女博物館『済州海女史料集』)

植民地時代(海女抗日運動)

- 1920.6.1 海女組合の消息(東亜日報)
- 1924.5.13 居住地の問題で海女組合また紛糾(東亜日報)
- 1927.5.6 済州島の海女を追い出し(朝鮮日報)
- 1928.5.5 海女入漁料の問題で 慶南道の当局に申請(東亜日報)
- 1928.5.19 済州海女の習例で総督府に申請(東亜日報)
- 1932.1.14 18箇条 要求 三百海女示威(朝鮮日報)
- 1932.1.24 済州海女示威詳報(朝鮮日報)
- 1932.1.26 海女等千五百名示威検束警官台を襲撃(朝鮮日報)
- 1932.1.26 500余名海女団駐在所を大挙襲撃(朝鮮日報)
- 1932.1.27 済州海女示威事件(朝鮮日報)
- 1932.1.28 800余名海女大挙して被検者奪還企図(朝鮮日報)
- 1932.1.29 海女等 また再び 示威, 青年層検挙継続(朝鮮日報)
- 1932.1.29 犯人奪還のため駐在所に殺到
- 1932.1.29 検束していた警察隊と海女団が大衝突(朝鮮日報)
- 1932.5.18 済州全土に検挙旋風(東亜日報)

去る一月十二日田口濟州島司が島内初巡視の際海女の一團が通行を擁して採集物の直上げおよび海女の組合の改善を陳情したのでよく事情を聴取の上、善處することになつたが、その裏面には思想團體が潜在背後で糸を操つてゐることが判明したのでなほ嚴重取調べの結果意外にも民衆運動協議會といふ左傾組合が組織せられて、海女などを扇動してゐるとが發覺したので二十四日海女問題とは別個にこれ等左傾分子の檢舉に着手、二十九名を細花駐在所に檢舉したしかるにこれに海女が興奮したのが原因である

朝日新聞 1932.1.28.

1.植民地時代(海女抗日運動)

濟州海女は、陸地に出稼を行い、低賃金、長時間労働で日本人海女を駆逐した。一方、入漁料など出漁条件をめぐって、たびたび現地の磯売り相手との紛争を起こした。海女は權益を守るため、海女組合を組織し、行政との交渉を行い、權益を守る取組を行った。

この取組は抗日運動とも繋がりを見せ、海女は抗日運動の尖兵と見なされるに至った。とりわけ、1932年には大規模デモ活動を行い、警察と衝突した(濟州島事件)

このため、濟州海女は第一に抗日運動の先駆けをなしたものとして評価されている。

新聞記事に見る濟州海女(海女博物館『濟州海女史料集』)

1950代

- 1954.6.9 海女紛争の真相(濟州新報)
- 1954.8.1 慶北海女問題交渉記(1)(濟州新報)
- 1954.7.11 出稼海女紛争再演(濟州新報)
- 1955.2.14 暗い出稼海女問題(濟州新報)
- 1955.4.24 最後まで海女搾取企図(濟州新報)
- 1956.3.4 好転した慶北出稼海女問題(濟州新報)
- 1956.3.14 海女指導員として引率者20名採用(濟州新報)
- 1956.3.24 計画出稼に順応しよう(濟州新報)
- 1954.4.1 人員調節に難点出稼申請海女百名超過(濟州新報)
- 1956.4.4' 出稼証を持った人のみ'海務当局各自海務庁に要請(濟州新報)
- 1957.5.15 海女窒息死亡(濟州新報)
- 1957.8.28 慶北海女問題溺死(濟州新報)
- 1957.9.22 作業中海女溺死(濟州新報)
- 1958.7.4 海女脱衣室43か所竣工行事で競技大会も開催(濟州新報)
- 1959.27 <社説>魚場売買問題と海女の権益問題(濟州新報)
- 1959.4.17 悲しみは海女にのみ, でたらめな慶北出稼業務(濟州新報)

1950年代

第二次大戦終結(1945)の後、朝鮮半島は南北に分断され、1950—1953には南北が直接戦闘を行う朝鮮戦争の事態に至った。

朝鮮戦争後、これまで濟州海女が出稼ぎしていた半島南部の磯場では、地元女性が潜水漁を始めた。

このため、1950代には濟州海女との対立が顕著になり、計画出稼ぎなど秩序ある出稼ぎが模索された。1950代後半からは潜水事故も頻繁に報道されている。

新聞記事に見る濟州海女(海女博物館『濟州海女史料集』)

1960代

- 1960.4.25 潜水器船侵入に海女達の抗議(濟州新報)
- 1960.5.13 わかめとっていた海女行方不明(濟州新報)
- 1960.12.21 海女権益擁護運動(濟州新報)
- 1961.2.8 優先権は海女に, 魚場売買はあり得ない(濟民日報)
- 1961.3.14 海女は搾取の対象ではない(濟民日報)
- 1963.5.21 <社説>出稼海女達の権益侵害を防止しろ(濟州新報)
- 1969.5.2 病にあえぐ海女ほとんどが中耳炎・皮膚・疾患に痛む(濟南新聞)

60年代は海女関連の記事は少ない。

潜水器漁業による海女漁の侵犯、海女の健康問題がこの頃から顕在化している。

また、海女の出稼ぎ問題や事故も引き続き報道されている。

新聞記事に見る濟州海女(海女博物館『濟州海女史料集』)

1970代の1

- 1970.7.4 日本出稼海女実態(濟南新聞)
- 1970.8.27 日本出稼海女団帰国(濟南新聞)
- 1970.9.5 海女実態:本島と日本海女社会の比較(濟州新報)
- 1971.1.20 わかめをはじめに軍納(濟州新報)
- 1971.1.29 ヒジキ豊作予想平年より発育よくて(濟州新報)
- 1971.4.10 模範漁民女性に選ばれた金玉連氏(濟州新報)
- 1970.4.28 濟州漁協海女, スポンジ作業服に変えることに(濟州新報)
- 1971.5.19 海女達健康管理水協, 来年まで予算策定(濟州新報)
- 1971.8.12 病抱いて帰ってきた出稼海女(濟州新報)
- 1972.7.31 具体的計画ない海女健康診断(濟南新聞)
- 1973.9.10 海女魚場が乾いていく(濟南新聞)
- 1973.10.22 海女達が海を離れている(濟南新聞)
- 1974.3.4 海女達の渡日ブーム(濟南新聞)

新聞記事に見る濟州海女(海女博物館『濟州海女史料集』)

1970代の2

- 1974.6.24 海女魚場踏みにじる潜水器船(濟州新報)
- 1974.7.3 今年は683名のみ出稼海女, 毎年減少(濟州新報)
- 1975.11.3 サザエ収入一千万円目標自立していく現在の漁村契(濟州新報)..
- 1975.12.30 76年度産サザエアワビ値段11~14%引き上げ落札(濟州新報)
- 1976.7.16 止められなかった海女出稼543名集計(濟州新報)
- 1976.8.10 海女出稼は縁故者につれて(濟州新報)
- 1977.6.27 島内海女大半職業病に痛む(濟南新聞)
- 1978.6.27 根本対策必要潜水器船と海女の紛争(濟州新報)
- 1979.1.15 顔をあげた潜水器船横暴海女共同魚場やたらに侵犯(濟州新報)

実りの多い陸地へ

▽濟州島の海女が激減

嶺国の南端、濟州島は、冬でも寒さをおかして十五二十度の深さまで潜り、アワビ、ナマコ、サザエ、海藻などの珍味を採取する海女で有名だが、最近では収入のよい農業に転業する人が多く、激減している。

「コリア・タイムス紙によると、この島で海女として生計をたてている女性数は昨年末で八千四百二人で、この数は前年の一万二千七百八十七人から三四%も減っている。一九六一年には二万六千人以上いたが、以後年々減り続け、近年特にその傾向がはなはだしいといふ。

同島の役所がまとめた昨年の統計では、海女のかせぎに依存する世帯の平均年収は千三万ウォン弱だったが、農家の方は八十六万ウォン。ここ数年、島のみかん生産量は急上昇を記録し、これが農業の収入増に大きく寄与している。

朝日新聞1976.7.13

2000年代以降の海女文化研究

- 2001 『海を越える濟州島の海女』 明石書店
李善愛(宮崎県立大学)
- 2002 『海の彼方の国へ』 PHP研究所
呉善花(ノンフィクション作家)
- 2004 「濟州島の海女共同体の生と仕事」『東アジアの女神信仰と女性生活』 慶應義塾大学出版会 韓林花(作家、濟州大学平和研究所特別研究員)
- 2009『濟州海女の生業と文化』
濟州道海女博物館
- 2009 『濟州海女史料集』
濟州道海女博物館

濟州の海女数 (2007 海洋水産局統計)

区分	濟州市	西歸浦市	計
現役の海女	3,004人	2,275人	5,279人
経験者	2,306人	3,019人	5,325人
計	5,310人	5,294人	10,604人

経験者:かつては潜っていたが、今は歩けるぐらい
の浅い海で海藻類を採取する者

現役海女の年齢 (2007 海洋水産局統計)

区分	30歳未満	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上	計
濟州市	0	7	220	621	1,034	1,122	3,004
西帰浦市	0	3	126	544	980	622	2,275
合計	0	10	346	1,165	2,014	1,744	5,279
比率(%)	0	0.2	6.6	22	38.2	33	100

濟州島での海女文化を活かす取組

2007 濟州海女抗日運動記念公園整備

2006 同公園に海女博物館開館

2006 無形文化遺産の保護に関する条約発効

→→濟州海女の世界無形遺産を目指す動き

2007 「濟州の火山島と溶岩洞窟群」世界自然遺産に

2009 濟州特別自治道の海女文化保存と伝承に関する
条例制定

* 2000年代から、海女文化の保護と継承、観光への活用を目指す政策を展開 ↔ 海女の高齢化、資源の枯渇



濟州海女抗日運動記念公園と海女博物館

海女博物館—韓国観光公社HPでの紹介1

海女博物館(ヘニョパンムルグァン)は1932年人間の尊厳性や生存権を収奪した日軍部に対して戦ってきた**濟州海女抗日運動の発想地(発祥地)**に位置しています。

濟州海女は困難な作業環境を乗り越え、強い生命力と開拓精神で知られる濟州女性の象徴でもあります。20年前までも濟州海女は家計の核心的な役割を果たしていましたが、30～40代の海女数が全体の15%にも至らない現在状況を考えれば、海女博物館の設立は**海女文化を保存する**旨で重要な意味を持っています。

歴史の中で作られた海女達の独立的で主体的な文化は郷土文化遺産としてだけではなく**世界から注目される観光文化資源**へと発展していくことでしょう。

海女博物館—韓国観光公社HPでの紹介2

当博物館は濟州ならではの独特な文化である海女、漁村、海洋文化を継承するため、濟州海女抗日運動記念講演(公園)の助成(造成)と連携し、85,951m²(2万6千坪)の敷地に総124億ウォンを投資し4階建ての規模で2003年12月末に着工されました。主要施設は4箇所の展示室、画像室、展望台、休憩室、屋外展示場などがあり、**2006年6月に開館。**

濟州海女達が残した大切な文化遺産を発掘・保存し、海女専門博物館に相応しい特色を活かした企画展示や持続的な海洋民俗発掘で**21世紀世界的な文化芸術のメッカへの成長**を目指しています。

韓国濟州道海女博物館の取組

『濟州海女の生業と文化』 2009. 1発行

海女漁村契についての悉皆総合調査(海女歌, 巫俗信仰と儀礼, 海神堂そしてブルトック, 慣習と規約, 文書, 海女達の言語, 海女作業現況と実態, 保存状況など)

調査期間 2006年7月～2008年8月

世界無形遺産登録に向けての基礎資料を意図

『濟州海女史料集』 2009. 11発行

歴史的な記録価値がある海女関連資料を選定、収録

- ・正史、私撰歴史書、私文書
- ・1920～1930年代の海女権益闘争、海女抗日運動記事
(朝鮮日報、東日日報)
- ・1950～1960年代の地方紙記事
(慶北財政地区関連記事、魚場管理, 海女達の生活)
- ・海女博物館所蔵戦前戦後海女関係漁業資料

濟州特別自治道の海女文化保存と伝承に関する条例
2009. 11制定

第3条(濟州特別自治道知事の責務)

- ① 濟州特別自治道知事(以下“道知事”という)は、海女文化の保存と伝承のために、具体的で体系的な努力をしなければならない。
- ② 道知事は海女文化の保存および伝承のために**5年単位で基本計画を策定・施行する**。基本計画には次の各号の事項を含む。
 - 1.海女文化の発掘・調査・研究事業
 - 2.海女漁場の保護および管理
 - 3.濟州海女関連無形文化財および民俗資料のユネスコ(UNESCO)無形文化遺産登載および資源化
 - 4.海女文化の世界化および広報
 - 5.その他海女関連各種施策の開発および推進戦略に関する事項

濟州特別自治道の海女文化保存と伝承に関する条例

第4条(支援)

道知事は海女生業技術の伝承と研究および調査、海女文化の発掘と保存・伝承のために必要な**経費の全部または、一部を予算の範囲の中で支援**することができる。

- ② 道知事は第8条第3項により、海女文化保持者として選定された者に対し行政・財政的支援ができる。

第8条(海女文化教育および保持者育成)

- ① 道知事は海女文化の伝承のために、**海女文化教育課程**を開設して体系的な教育を実施することができる。
- ② 海女文化教育は村単位の**漁村契と連携して運営**し、関連専門機関と協議して実施する。
- ③ 第1項により海女文化教育課程を履修した者の中で海女文化伝承に能力があると認める者を**海女文化保持者**に選定することができる。
- ④ 海女文化教育などに関して必要な事項は規則に定める。

济州特別自治道の海女文化保存と伝承に関する条例

第4条(支援)

道知事は海女生業技術の伝承と研究および調査、海女文化の発掘と保存・伝承のために必要な経費の全部または、一部を予算の範囲の中で支援することができる。

- ② 道知事は第8条第3項により、海女文化保持者として選定された者に対し行政・財政的支援ができる。

第8条(海女文化教育および保持者育成)

- ① 道知事は海女文化の伝承のために、海女文化教育課程を開設して体系的な教育を実施することができる。
- ② 海女文化教育は村単位の漁村契と連携して運営し、関連専門機関と協議して実施する。
- ③ 第1項により海女文化教育課程を履修した者の中で海女文化伝承に能力があると認める者を海女文化保持者に選定することができる。
- ④ 海女文化教育などに関して必要な事項は規則に定める。

济州特別自治道の海女文化保存と伝承に関する条例

第9条(研究機関設立など)

道知事は海女の生活と社会・文化的機能の保存および歴史・文化的価値を明らかにし、継承するための研究機関を設立・運営することができる。

- ② 知事は第1項の研究のために必要と認められれば専門機関または、団体に委託して運営することができる。

第11条(交流)

道知事は過去に济州海女が出稼海女漁をした地域や関連国際機関および海外地域などとの交流に努めなければならない。

第12条(海女の日)

道知事は“海女の日”を指定して持続的に海女文化を広報し、後世に伝承する基盤の整備に努めなければならない。

**济州海女文化グローバル化5ヶ年
基本計画(2011～2015)**

海女祭り 全南鬱陵島江原道など济州出身海女、日本
海女などを招き国際的なイベントとする

世界遺産 2012 無形遺産潜在リストに登録
2014 ユネスコ世界無形遺産登録

海女の日 世界遺産登録日を海女の日とする
高さ40mの巨大海女像の建立

海女文化教育センターと海女文化体験場の整備による
海女文化の伝承保存